

# 彩の技術士

公益社団法人 日本技術士会 埼玉県支部  
The Institution of Professional Engineers, Japan

こうほう・Vol.21.2023.4.1

〒333-0844 川口市上青木3-12-18 SKIPシティ A1-706B  
埼玉県支部事務局  
TEL: 048-263-0840, Fax: 048-263-0841  
[http://www.engineer.or.jp/c\\_shibu/saitama/index.html](http://www.engineer.or.jp/c_shibu/saitama/index.html)



| 目                          | 次                    |
|----------------------------|----------------------|
| 巻頭言                        | 東洋大学理工学部 教授 鈴木崇伸     |
| 支部長挨拶                      | 日本技術士会埼玉県支部 支部長 若林直樹 |
| 委員会活動報告                    |                      |
| 総務企画委員会                    | 委員長 白岩信裕             |
| CPD委員会                     | 委員長 増古恒夫             |
| 科学技術振興委員会                  | 委員長 中田よしみ            |
| 地域産業支援委員会                  | 委員長 近藤 孝             |
| 地域活性化委員会                   | 委員長 若林直樹             |
| 第9回彩の国産業活性化交流会の実施報告        |                      |
| 地域産業支援委員会                  | 委員長 石田正雄             |
| 技術士研究・業績発表大会の実施報告          | CPD 委員会 白岩信裕         |
| 会員活動報告「マレーシアライフ」           | 地域産業支援委員会 若井一顕       |
| コミー(株)見学・講演会報告             | CPD 委員会 伏見隆夫         |
| かわごえ産業フェスタ出展報告             | 地域活性化委員会 近藤 訓        |
| 彩の国ビジネスアリーナ 2023 オンライン出展報告 | 地域産業支援委員会 出森公人       |
| お知らせ                       |                      |

## 巻頭言 混迷の時代

東洋大学理工学部 教授 鈴木崇伸

日本では少子化の流れに歯止めがかけられず、これから急激な人口減少の局面に入ろうとしています。人口が増えて経済的にも繁栄した20世紀後半とは真逆の混迷の時代にさしかかった今、技術立国のあり方を見直す必要があります。経済成長を目的とした科学技術は潤沢な資源と労働力を前提としますが、資源もなく労働力も激減する21世紀の日本では限られたリソースを使って経済活動と質の高い生活を維持する技術が求められます。経済活動と生活レベルを堅調に維持する基盤となるのが社会インフラになります。

20世紀後半の日本では好調な経済に支えられて社会インフラの整備を急速に進めることにより質の高い生活を手に入れました。新幹線や高速道路の全国ネットワークが整備され、空港や港湾の整備も進められました。交通ネットワークの整備を経済成長につなげるために産業構造の変革が進められ、大都市に人口が集中し、地方が過疎化する流れが定着しました。このような状況で迎えた21世紀は全国でつくられた大量の社会インフラの適切な維持管理が求められます。年々老朽化が進み人口の減少により余剰となる社会インフラを限られた財政でどうするかが喫緊の課題となります。

東洋大学では全学的な研究プロジェクトの一つ

としてPPP研究センターをつくり、その中に「省インフラ研究会」を組織しています。インフラの維持管理コストの縮減だけにとどまらず、インフラそのものを縮減することも含めて持続可能な公共サービスの在り方を議論しています。物理的なインフラに頼ることなく質の高い生活を維持する方策は21世紀の日本に求められる新技術であり、人口が減少局面に入る多くの国においても必要とされる技術になります。



教授 鈴木崇伸氏

技術士はものづくりの専門家であり、新しい時代を切り開く開拓者といえる存在です。いま経済活動と質の高い生活を維持するためのいろいろな新技術が求められています。人口減少という混迷の時代を乗り越えた先の軟着陸ポイントに向けて社会の改革を担うのが技術士会であると考えます。解決困難な課題が山積する令和時代ですが、技術によるブレークスルーが多方面で求められています。技術士会の皆様の一層の活躍を期待しています。

(PPP: Public/Private Partnership)

## 支部長あいさつ

日本技術士会埼玉県支部支部長 若林直樹

この数年、世界は新型コロナウイルス感染症拡大に多大な影響を受けました。しかし、様々な行動が制限されるなか、テレワーク等のオンラインに対する取組が加速的に進むといった新たな知見も得ることができました。これからは、ウィズコロナあるいはポストコロナ時代を見据えた、新たな対応が必要とされています。

そのような中、当支部は、2022年度は、前年度に引き続きオンライン方式を有効に活用しつつ可能な限り対面方式を取り入れ、関係する方々や地域の方々とのコミュニケーション確保に努めてきました。2023年度も引き続き、支部のスローガン「技術の力で地域の発展に貢献」のもと、地域社会経済の発展に貢献していきます。コロナ禍で、地域の中小企業がたいへんご苦労をされて状況のようですが、皆

様の技術面の「困りごと」に対して、引き続きご支援をさせていただきたく所存でございます。

去年は、わが国の出生数は80万人を下回るということで、少子高齢化がより一層加速し、将来の科学技術の担い手確保への懸念が高まっています。当支部では、今後も理科教室を継続的に実施し、担い手確保に努めていきます。我々技術士は、技術士法により資質向上を図ることが定められており、継続研さんに注力しています。今後も切磋琢磨し、地域や社会の発展に貢献していきますので、引き続きご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



支部長 若林直樹

## 委員会活動報告

### 総務企画委員会活動報告

総務企画委員長 白岩信裕

#### 1. 2022年度下期活動結果

下期は上期同様、情報の共有化、業務の円滑化を図るよう支部の会議運営や事務処理の方法を見直しました。しかしながら内外の要請に全て応えることはできていません。そのような状況ですが、事務所INS電話回線を光回線に10月に切り換え、所内を整備し事務効率化をすすめました。また技術士の知名度向上のため、支部創立10周年記念誌の配布をすすめ埼玉県支部関連リーフレットの見直しを図っています。

#### 2. 2023年度上期活動方針

当委員会では、支部の情報発信の質向上のため

前期末に広報グループを立ち上げました。グループには他委員会の委員が加わり、活動目的を、支部発行書誌、支部HP、支部関連動画の制作、管理、運営を担い、支部会員および関係者に対し迅速に情報を発信することにしました。

また上期は、支部幹事の改選があり、7月開催の年次大会にて組織および活動方針の確認が行われます。その前（5月）には技術士試験合格者祝賀会を開催しますので、それらを円滑に進めるよう努めます。行事は、支部活動への理解を得る重要な機会と捉えており、支部会員には是非共参加をいただき、意見交換をお願いしたいと思っています。

### CPD委員会活動報告

CPD委員長 増古恒夫

#### 1. 2022年度の実績

委員会はWebを基本とし以下の活動をいたしました。

支部他委員会の協力を得、CPDセミナー15回（講演8回、Web講演2回、見学会4回、研修1回）、技術士制度・資格取得説明会（対象：企業・機関、県内3大学）4回、新規開業セミナーを1回実施しました。CPDセミナー参加者は延べ550名、Web講演の効果もあり増加しました。またCPD時間は43時間（昨年度より7時間増）でした。技術士制度・資格取得説明会参加者は280名でした。

#### 2. 2023年度の計画

「新たな技術士CPD登録制度の取組」に関しての周知も含めWebの活用も強化し活動する方針です。CPD企画は順次本部行事案内や埼玉県支部HPに掲載していきます。多くの会員の皆さまの参加をお待ちいたします。

## 委員会活動報告

### ➤ 科学技術振興委員会活動報告 科学技術振興委員長 中田よしみ

2022年度は、委員会開催6回を含め主催理科教室(よくとぶ紙飛行機)を実施、また、さいたま市内の学童保育所で理科教室(3回)、オンラインCPD講演会等を実施しました。

2023年度は、昨年度の活動を踏まえた動画作成のほか、東部地域小委員会と理科教室コラボなど、企画しています。本活動を通し、将来科学技術を支える人が増えることを願っています。一緒に活動をしてみたい方、活動見学などお待ちしております。



写真 主催理科教室「よく飛ぶ紙飛行機」の様子  
(2022/7/31開催)

### ➤ 地域産業支援委員会活動報告 地域産業支援委員長 近藤 孝

2022年度は『10周年以降の支部活動の方向づけ』をスローガンに、活動を続けて参りました。

#### 1. 社会貢献活動

- ① 防災支援グループは、立正大学でのDIG演習を実施し、技術士がファシリテーターとして6名参加し、好評でした。

#### 2. 地域産業支援活動

- ① VCADシステム研究会(理化学研究所関係の研究会)への支援を継続し、会員企業の顧客向けのガラス物性測定に技術士2名が協力し、有効なデータを取得しました。

また、VCADシステム研究会の運営に協力すべく、合同運営委員会に技術士が2名就任して協力を行っています。

- ② 川口商工会議所の「川口i-mono・i-wazaブランド」審査部会の審査員に技術士2名が参加しブランド登録支援を行いました。

#### 3. 外部への技術士紹介活動

- ① 展示会は、彩の国ビジネスアリーナなどにオンライン出展し、技術士活動の紹介を行いました。
- ② 外部からの技術士の紹介依頼は、16件受け、5件は依頼元と契約を結びご支援を行いました。

### ➤ 地域活性化委員会活動報告 地域活性化委員長 若林直樹

地域活性化委員会は、「地域とともに歩む」ということを念頭に置き、地域に密着した活動を展開しています。委員会は、北部・西部・東部の各小委員会から構成されていますが、コロナ禍の中いずれの小委員会も、商工連携活動に多大な制約を受けましたが、今後、行動制限の緩和を視野に入れ、活動の強化・再構築を図っていきます。

その一方、我々技術士の責務である、資質向上のためのCPD講演会および見学会は、2022年度はほぼ計画通りに実行できました。とくに、今年度は、カーボンニュートラルを意識したテーマであり、「埼玉県環境科学センター 講演・見学会」「コロナ後のSDGsとカーボンニュートラル対応」「下水道の資源化」「AIを利用した自動選別ロボットを

有する最新鋭廃棄物処理施設」「彩の国資源循環工場バイオガスプラント等の見学」という内容で実施しました。カーボンニュートラルへの取組は国の重要施策であり、技術士21部門の全てが対応しなければならない社会課題です。今後も、引き続き、CPD講演会によって知識向上のみならず、社会実装に向けて貢献すべく努めていきます。

また、今年度は地域との連携活動である防災支援活動が、地元のコミュニティ放送局の番組で取り上げていただくという機会を得ました。今後もこのような取組により、活動を地域の方々に知っていただき、それにより、技術士の知名度向上に繋げていきたいと考えております。



## 第9回彩の国産業活性化交流会の実施報告

地域産業支援委員会副委員長 石田正雄

日本技術士会埼玉県支部の二大イベントのひとつである彩の国産業活性化交流会は、県内中小企業等への支援を目的にほぼ毎年開催しているもので、行政、支援機関、企業、技術士が行政施策、支援事例等を発表し、互いに意見を交わして産業活性化の道筋をさぐる交流会です。

今年度は、下記日程とプログラムで行いました。

テーマ：～技術士はこんな支援ができます 第4弾～

開催日時：2022年11月18日（金）

会場：新都心ビジネス交流プラザ

プログラム：

- 1.挨拶 日本技術士会埼玉県支部支部長 若林直樹
- 2.ご挨拶 埼玉県産業労働部産業支援課課長 神野真邦氏
- 3.特別講演 「埼玉県初の小水力発電」  
陽野ふるさと電力株式会社  
取締役事業部長 江田治雄氏
- 4.支援技術紹介
  - 1) 機械構造物の振動騒音対策の現状  
機械部門 長谷川俊一
  - 2) 遠隔監視診断システムの技術と課題  
電気電子部門 出森公人
  - 3) 食品産業での冷凍技術の活用支援  
農業部門 山本達也
  - 4) なりわい支援WGの活動  
経営工学部門 伏見隆夫
  - 5) DCブラシレスモーター技術支援  
応用理学部門 今井康章

はじめに若林支部長の挨拶があり、コロナ禍、ウクライナ情勢による物価上昇等の厳しい経済状況を中小企業が乗り越えるための支援を通し、技術士は社会に貢献したいとの考えが示されました。

次に埼玉県産業労働部産業支援課課長神野氏より、初めて人口減少に転じた埼玉県にて、厳しい経済情勢の中、中小企業事業再構築として国のグリーン成長戦略に基づく14分野への参入施策を推進する上で、技術士会による技術相談会等の技術支援に対する感謝と期待が大きいとのご挨拶をいただきました。

特別講演では、陽野ふるさと電力株式会社取締役事業部長江田氏より、埼玉県初の小水力発電の紹介をいただきました。これは「地球温暖化防止のために我々でできる事業」として「秩父の立地を活かした再生可能エネルギーである小規模水力発電」を企画し、「事業性と環境保護を両立」させることで成功したものです。そして売電収入から地域の緑化に貢献したことにより内閣総理大臣賞を受賞しました。今後は地域の高齢者や障がい者の足となる電気自動車の配備を目指すとのことです。

支援技術紹介では、「技術士はこんな支援ができます」をキーワードに、幅広い分野の技術士5名が各分野の支援技術の紹介をいたしました。

これらの内容にかかわらず、支援のご要望・資料等のご要望があれば遠慮なく、[saitama@engineer.or.jp](mailto:saitama@engineer.or.jp)へご連絡下さい。



彩の国産業活性化交流会の会場風景

## 2022 年度技術士研究・業績発表会の実施報告

CPD 委員会 白岩信裕

技術士研究・業績発表大会が、2023年1月7日（土）、新都心ビジネス交流プラザにて29名参加のもと開催されました。村山肇幹事の司会のもと若林直樹支部長の開会挨拶の後、4名の技術士による発表がなされ、最後に増古恒夫 CPD 委員長が閉会の挨拶を行いました。

4つの発表は以下のとおりです。

### 発表1. 「産業への応用が期待される光および中性子を利用する計測」

アイビー技術士事務所、理化学研究所 光量子工学研究センター 中性子ビーム技術開発チーム 山本哲氏（電気電子、機械、総合技術監理）



山本 哲氏

開発に関わった光ファイバ利用のセンサおよび、現在携わっている中性子利用の計測システムが紹介され、その中で光の電磁波、中性子の物質波としての特徴と特性について説明がなされた。さらにそれらに基づく計測原理が詳しく説明され、産業での応用として光ファイバではひずみ分布計測のインフラ（河川堤防）への応用、温度分布計測によるインフラ（地熱井戸、コンクリート打設、火災検知等）への応用が紹介された（論文等有）。また中性子によるインフラ（コンクリート欠陥等の計測）への用途開発の状況が話された。

### 発表2. 「埼玉県におけるこれまでの川の再生と今後の取組について」

埼玉県 県土整備部 河川環境課 長谷部進一氏（建設）



長谷部進一氏

埼玉県では「川の国埼玉」と銘打って平成20年度より、地域や関係機関と連携して、良好な水辺空間創出のため「川の再生」に取り組んでいる。令和3年度からは、環境、社会、経済の三側面で豊かな自然と共生し、持続的に発展する埼玉を創るよう、地域（住民・団体）や民間事業者（企業）等と連携し、新たな川の再生「NEXT川の再生」と「SAITAMA リバーサポーターズプロジェクト」を推進している。それに係る行政職と技術職を兼ねる

立場から事業の具体例（入間川、都幾川等）の紹介がなされ、今後はRX（リバートランスフォーメーション）を実施していくと話された。

### 発表3. 「国内にライバル無き重機企業における設計書とFMEAによるトラブル半減への指導」 国井技術士設計事務所 国井良昌氏（機械）

道路整備などの重機（アスファルトローラー）の国内唯一の開発/製造企業で起きていた設計トラブルの低減化事例が紹介された。具体的には日本で重視されていなかった設計書の確立を説き、5年間に渡り、DGD（簡易設計書）作成とシンプルFMEAの実施を徹底指導し、設計マネジメント強化で「トラブルの半減」を達成させた。実施に当たっては目標設定を貨幣換算し、特性要因図で4Mの要因を特定し、その中のMaterialを対象に改善しトラブルを減少させた。対策指導では5W1Hから派生させた「6W2H設計フォーマット」を用い、週報会およびグループ内設計審査を通して、設計マネジメント力と技術者間のコミュニケーションを強化させた。現在は歯止めとして、月1回の設計審査とFMEA審査及び技術セミナーを実施している、と話された。



国井良昌氏

### 発表4. 「事務機用DCブラシレスモータの技術動向」 今井技術士事務所 今井康章氏（応用理学）

電気機器メーカー在職中に手掛けた、光アップ対物レンズ駆動装置の耐環境性向上、光磁気ディスク用スピンドルモータとセミカスタムICの開発、フロッピーディスク用スピンドルモータの薄型化、DCブラシレスモータのメカニカルジャイロへの採用に関する成果（論文や特許有）等について解説され、発見や失敗から得られた教訓が示された。その後、DCブラシレスモータのニーズに対するシーズとそれを支えるコア技術の説明と今後の展開について話された。



今井康章氏

はじめに

マレーシアに住み始めて3か月が経ちました。会社勤めから、大学教授へ、退官後には技術士事務所を開業して2022年から海外生活を始めました。多くの同僚に助けられて、好き勝手に技術開発や研究に没頭できたと思います。今回は、私の海外移住への歩みと、技術士からみたマレーシア生活の一端をお伝えします。

### 1. 海外生活への興味

仕事で初めて駐在した国が Thailand でした。35歳くらいの頃です。国営放送の立ち上げで、若手技術者を育成すること、所内の設備の操作とメンテナンスの指導でした。「チャンネル11」には技術部長と専門職技術者2名のカウンターパートが付きましました。テクニシャンが50名くらい。講義は英語からタイ語に変換してもらいます。初日の講義は今でも忘れられません。海外旅行は年に1度のペースで行っています。船旅でも多くの国を訪れました。マチュピチュもナスカの地上絵にも感激しました。その後、放送衛星の製造で米国の東海岸、西海岸でのメーカ駐在は貴重な経験になりました。IEEE学会で知り合った会社のCEOからラスベガスで会いたいとのオファーを受けて、翌年に出かけたこともあります。海外で新しい経験をすることは大好きです。

### 2. マレーシア移住の理由

東南アジアへの国々には出かけていますが、マレーシア人の親切さが好きなのもマレーシアを選択した理由の一つです。ハワイなどに比べて物価の安いのも魅力です。それでもKL(クアラルンプール)の物価は多少高いように思います。大学の退官を2017年に控えて、2016年にはマレーシアを北から南まで「移住者のお宅訪問のツアー」に参加しました。いろいろな方にお会いして貴重なお話しが聞けました。私がマレーシアのMM2H (Malaysia My Second Home) のVISAを取得したのが2017年です。申請から取得まで半年近くを要しました。実は、コロナ禍の2021年10月からは、MM2Hの取得要件が厳しくなっていました。マレーシア政府としては、取得者を国民の1%に抑えたいとの方針を決めたようです。私の場合、コロナ禍で移住が2年近くも遅れまし

た。KLに渡航できずに、現地業者とは遠隔でのやり取りです。メールや電話、時にはZoomで要求を説明しました。の内装工事も終わり、2022年から移住を開始しました。現地では決まった仕事をしているわけではありません。執筆が中心です。出版も5冊目で足踏みです。しかし、自分のペースで、遊びや仕事ができる幸せを感じています。コロナ禍の副産物として、Webセミナーが世界の何処にいても視聴できる時代になりました。CPDの蓄積も出来ます。



若井一顕氏

おわりに

技術士生活を通して社会ニーズと海外活動を考えるとき、専門分野のトレンド、あの時の発想が今なら出来る?とか、経験の価値を再考したいと思っています。まずは、健康管理が最優先です。マレーシアの気候は年間を通じて32℃くらい、地震、災害が少ない土地柄も魅力です。この歳で今何をしておくべきか、DX、IoT、AI、そしてSDGsと自分との関係も見つめてみたいですね。この歳で何が出力できるのか。日々の課題でもあります。先日、AIの「チャットGPT」を使ってみました。凄い、面白い、考えさせられます。これなら学生が論文作成に使いそうです。指導者もこれからは大変な時代です。今後は、現地の産業実態を調べて大学などとのコネクションを図りたいと考えています。展示会など、現地を視察するツアーの企画も面白いと思っています。

またご報告出来る機会が有ればと思います。



写真 ペトロナスツインタワー  
高さ451.9m KL市中心部のシンボル



## 🌀 小さな国際企業コミー株式会社の見学・講演会

CPD 委員会 伏見隆夫

コミー株式会社は特殊ミラーの開発、製造販売で世界にオンリーワンの企業です。「なぜ？」を起点に開発を行い、開発が出会いと創造、信頼の喜びの場と考え、社員の発想を重んじ、創造性豊かなものづくりを企業文化としています。2022年9月15日に、関心のある10名が訪問し、小宮山栄代表取締役社長の講演をお聞きし、職場を見学しました。

### 1. 講演「コミーは物語をつくっている会社です」

代表取締役社長 小宮山栄氏

会社は1967年に看板屋として創業し、回転看板用装置に凸面ミラーを取り付け、回転鏡「回転ミラックス」を創りました。「なぜ、凸面ではなく、フラットで視野が広いミラーが無いのだろうか？」という疑問からFF (Fantastic Flat) ミラーを生みだし、

航空機の手荷物入れの内部確認用に採用され、改善を続け事業拡大を果たしています。「なぜ？」の問いかけは最重要で、思ったことは実践し、「コミーさんなら知恵を貸そう」という出会いを大切に考え、多数の顧問に助言をいただくようにしています。

また日本の箸文化に関心を寄せ、箸を用いたゲーム「箸タイム」を開発し、物語を創っています。

### 2. 職場見学

全社員が勤務時間内に「箸タイム」を実施し、コミュニケーションが醸成されており、Qi (Question & Innovation) センターではミラーの応用製品を、本社製造現場では生産性向上の様子を見ることができました。

## 🌀 地域活動の紹介「かわごえ産業フェスタ出展報告」

地域活性化委員会西部小委員長 近藤 訓

2022年11月26日(土)～27日(日)に、ウエスタ川越で開催された「かわごえ産業フェスタ」に、日本技術士会埼玉県支部として出展しました。

出展タイトルは「川越の地形を知ろう!」で、主なテーマは、「①川越市街は台地である。②市街の東側は、太古には海であった。③川越城の痕跡は、いまも確認できる。」で、技術士の目で見たい川越の魅力を来場者に体験して頂けるよう工夫しました。実際には、ジョイスティックを操って、作成した川越市街地の3次元仮想空間内を自由に動き回りながら川越の地形の特色を実感するものでした。1日目は34組(47名)が、2日目は42組(72名)の方々が仮想空間の散策を楽しまれました。

展示で用いたデータと閲覧システム

| 種類     | 名称             |
|--------|----------------|
| 標高データ  | 基盤地図情報 数値標高モデル |
| 起伏表現図  | 陰陽図            |
| 地形モデル  | 3Dサーフェスモデル     |
| 古代海面   | 仮想水面データ        |
| 写真画像   | 地形モデルに対応した現地写真 |
| 閲覧システム | 仮想空間操作・閲覧システム  |
| 機材     | パソコン、PS3コントローラ |

展示会場(仮想空間を散策中)の風景



## 🌀 彩の国ビジネスアリーナ2023 オンライン出展報告

地域産業支援委員会 出森公人

彩の国ビジネスアリーナ2023は、「To the next stage ビジネスチャンスはここにある!」をスローガンに、中小企業の受注拡大・販路獲得を目的としたリアルとオンラインのハイブリッド展示商談会です。

今年は、2月8日と9日にリアル展示会、2月1日から15日にオンライン展示会が行われ、埼玉県支部はオンライン展示会に参加しました。

展示会では、技術士の知名度向上、地域機関との連携、会員技術士の業務開発、支部会員の拡大に向けて制作した支部紹介動画と支部支援技術の説明パネルを出展しました。紹介動画には、埼玉県支部の組織、会員の構成、地域産業支援委員会における技術相談会の内容のほか、CPD委員会と科学技術振興委員会および地域活性化委員会の取り組みを約2分間にまと

めたYouTube動画を使用しました。動画の他にも、彩の国産業活性化交流会で発表した19件の支援技術も写真や絵を使った説明パネルで紹介しました。

さらに、日本技術士会 広報委員会のご協力を頂き、日本技術士会の活動を紹介する本部制作動画4本も埼玉県支部紹介動画と一緒に出展しました。

今回の展示会では、動画を使い活動を紹介したことで各出展企業・団体やアクセスされた皆様へ日本技術士会と埼玉県支部及び支援技術のPRができたと思います。紹介動画の制作を推進しますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

埼玉県支部紹介 YouTube



URL [https://youtu.be/NVY7f6-r\\_pw](https://youtu.be/NVY7f6-r_pw)

## お知らせ

### ▶ 開業を考えておられる方へ

技術士 石田正雄 (金属部門)

技術士資格を活かし開業を考えておられる方に、新規開業セミナーへの参加を勧めます。

私は2015年に技術士の資格を取得し、企業内技術士として埼玉県支部のお手伝いをしながら2020年末に退職、2021年初めに個人事業を開業しました。

開業の準備としては、埼玉県支部 CPD 委員会、海外活動支援委員会、技術士活性化委員会が

主催した新規開業セミナーを計5回受講しました。

これらは、様々な方が経験に基づいて、具体的なかつ詳細な開業手続き、所得税の確定申告(青色申告のいろは)、開業後の心得等を紹介されるもので、とても参考になりました。お勧めです!

そして、私も埼玉県支部のセミナー講師として開業の体験談を紹介しています。

### ▶ 技術士 CPD (継続研さん) 活動実績の登録及び活用の勧め

CPD 委員会

技術士には国際的通用性の確保や技術士資格の活用を図る上で、技術士資格取得後の継続研さん(CPD)と資質向上が常に求められます。そのような観点で、CPD 実績を証明できるよう、2021年4月26日発出の文部科学大臣通知及び同年9月8日の文部科学省省令改正で、「新たな技術士 CPD 活動実績の管理及び活用制度」が開始されました。

具体的には、日々の CPD 活動実績を日本技術士会の登録簿へ技術士自ら行います。すると自動的に「資質向上の取り組み状況」として「技術士

登録簿」に実績が記載され、公表される活動実績名簿に名前が載ります。更に実績が基準を満たす者は「技術士(CPD認定)」され、公表され証明書の発行もされます。

詳細は、日本技術士会本部 HP (下記 URL) に動画で「技術士 CPD 活動実績の管理及び活用制度の説明」として示されています。未登録の技術士は是非視聴し、登録を進めていただきたいと思います。そして実績を積む一助として埼玉県支部の CPD 行事への参加をお願いいたします。

(HP: [https://www.engineer.or.jp/c\\_topics/008/008205.html](https://www.engineer.or.jp/c_topics/008/008205.html))

## 埼玉県支部協賛団体の紹介

(団体名はかっこ順)

1. バルセッジ・インコーポレイテッド  
日本代表 菅原宏
2. NPO 法人 彩の国技術士センター  
代表理事 山本幸夫
3. 有限会社 中村金属工業  
代表取締役 三木虎連
4. 共和コンサルタント 株式会社  
代表取締役 小山一裕
5. 一般社団法人 技術士さいたま  
理事長 中村憲雄
6. 株式会社 テクノクオリティー  
代表取締役 渡部利範
7. 株式会社 日さく  
代表取締役社長 若林直樹

## 編集後記

新年度を迎え、入学・入社あるいは転職等された方の新生活が始まります。不安と緊張と希望を抱き、自らの道を歩まれることでしょう。

埼玉県支部は昨年度末の役員改選を受け、本年7月から新組織の活動が開始されます。時機を得た情報の発信と CPD 行事を企画運営することで、会員に活動実績を積む機会を提供できればと思います。

昨年度は、支部創立10周年記念事業を実施し、組織の過去の歩みと次への歩みを確認しています。それから1年経過した現在、支部創立から長年勤務された事務職員の方が退職し、新たな職員が継ぎされたことや、総務企画委員会を増員し、広報活動充実のためにグループを編成したことなど、着々と歩みは続いています。本号広報誌も記事の多様化を目指し、従前の巻頭言、支部部組織の活動、講演と見学会の実績紹介に加え、会員の海外生活の紹介、動画利用による広報活動の紹介やお知らせの記事を載せました。

今後も楽しく読める広報誌をお届けできるよう頑張りますので、ぜひ、ご意見や感想をお寄せください。よろしくお祈りいたします。

おくづけ 公益社団法人日本技術士会埼玉県支部  
こうほう・彩の技術士 第21号  
発行年月日 2023年4月1日  
発行者 埼玉県支部(支部長 若林直樹)  
Email [saitama@engineer.or.jp](mailto:saitama@engineer.or.jp)  
編集 埼玉県支部総務企画委員会  
(※記事中の所属・肩書等は執筆当時のものです)